

2024年度第3回 川崎市 PPPプラットフォーム意見交換会 実施結果概要

事業名	夢見ヶ崎動物公園魅力創出事業
事業所管課	建設緑政局緑政部みどりの事業調整課
実施日時	令和6年11月22日（金）、令和6年11月25日（月）
参加事業者	全7社
対話方式	個別対話
意見交換会における主な意見等	
① 施設整備の方法・手法	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の特性に応じてプログラムを実施できるが、地域住民や子どもたちがボランティア等で関わられるようにする場合は、作業スペースを設けるなどの配慮が必要。 ・定期的に引馬をやるのであれば、これを踏まえた設計にしてほしい。 ・指定管理者制度を導入するのであれば、プログラム等の拡充に伴って多くのスタッフに関わってもらう必要がある。このため、新しくできたパークセンターに加え、スタッフが柔軟に活用できる空間を用意してほしい。
② 管理運営の方法・手法	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成に力を入れており、プログラム運営、飼育、接客等全て自社で活性化させることができる。 ・周りの自然を活かした教育機会の普及は可能と考える。ほかの動物園にはいない動物、特殊な生き物が多く、生き物のコンテンツを様々なプログラムで展開できる。周辺に自然が残るため、昆虫の観察のほか、身近な生き物をテーマにして室内で飼育を行いながら、生態を展示していく。 ・動物介在教育を一つのコアとしてやるのは良いと思う。子どもが増えている自治体であり、オフィシャルな形で導入できれば利用が見込める。 ・今の職員が行っている飼育の方法は尊重すべきである。 ・施設や樹木の管理について、地域ボランティアと協働の促進ができる。 ・駐車場の有料化時は設置許可制度を活用したい。

<p>③ 運営費獲得の方法・手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいに厳しい目が向けられていることは知っている。餌を来園者向けに売る場合、個体ごとに量を調整するなど管理が難しい。 ・新たなオリジナルグッズを売ることによって収入源確保につながられる可能性がある。 ・乗馬プログラムなど、大人からも料金を徴収できるプログラムはある。 ・えさやり体験や動物のグッズ販売などは一定の需要を見込める。 ・地域で協賛してもらえる企業やネーミングライツなど募集し予算原資を得ることが望ましく、それにより自走できる。 ・公共の駐車場を休日に有料化（事前予約制）した事例があり、自治体が負担するコストがほとんどないだけでなく、その収益の一部は自治体の財源になっている。 ・駐車場を予約制にすることにより、交通渋滞が減り、利用者も安心して来園できる。 ・バスについては予約がキーワードであると考えている。予約システムをうまく活用し、来る時間を特定させる運用とすると、先手の対応が取りやすい。
<p>④ 官民の役割・費用の分担</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・官民ハイブリッド型の動物園を目指す自治体が増えていると感じる。 ・種の保存・研究は公共性が高い。市で維持した方が良い。 ・直営から指定管理者制度へ転換することで、プログラムが充実することなどにより利用が促進され、来園者数の増加につながるが、その分、人件費が必要となる。
<p>⑤ 参画可能性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育業務だけを行う職員を専属で配置するのではなく、イベント業務や協働業務も行える職員を配置する。例えば、平常時は清掃等、繁忙期はイベント対応をするなどの柔軟な運営を行う。 ・直営からいきなり民間に、だと相互にリスクがある。移行について相当期間があればお互い無理なく進めることができる。 ・動物介在教育、子どもの居場所づくりのプログラム、里山の再生、花壇活動、市民協働支援に主に関わりたい。

<p>⑥ その他市に期待すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園施設の設置許可制度に基づく許可使用料が高いと参入意欲が低くなるので、最低ラインを設定した方が良い。 ・ 動物介在教育を進めるためには、十分に馴致した家畜種の動物を用いることが必要であり、従ってどのような動物を夢見ヶ崎動物公園に導入していくかが重要である。 ・ 動物のお世話に関わった子どもたちが、動物について大学等で学び、獣医師やスタッフになった実績がある。ある一定の期間、通ってもらえる場となれば、将来動物に関わっていく人材も少ないながら輩出される。 ・ スタッフはただの飼育員ではなくて社会教育者であるべきであり、そうなる動物公園としての価値が高まる。夢見ヶ崎動物公園は、社会教育施設として子ども時代に良い経験ができる場になってほしいと思っている。 ・ 動物の命を守る事業、地域協働を促進する事業のため、複数年度の事業期間を希望する。 ・ 居住地などの来園者の属性を把握する必要がある。どこの地域からどれくらい人が来て、どのくらい滞在するのかという情報が今後の取組において重要になると考える。
----------------------	---

今後の対応

今回いただいた御意見を参考にしながら、川崎市夢見ヶ崎動物公園再整備計画に位置づける管理運営手法等について検討を進めて参ります

※上記内容については、参加事業者の承諾を得られたもののみ公表しています。

【お問合せ先】

建設緑政局緑政部みどりの事業調整課

電話：044-200-1200

メール：53mityo@city.kawasaki.jp